

# 令和元年度第1回前橋地域保健医療対策協議会

## 次 第

日 時：令和元年8月8日（木）

13：30～15：00

場 所：群馬県庁29階 第1特別会議室

### 1 開 会

### 2 あいさつ

### 3 議 題

- (1) 前橋地域保健医療対策協議会の部会の設置について（案） 【資料1-1～2】
- (2) 第8次群馬県保健医療計画の変更について 【資料2-1～7】
  - ・医師の確保に関する事項（医師確保計画）
  - ・外来医療に係る医療提供体制の確保に関する事項（外来医療計画）

### 4 報告事項

- (1) 地域医療構想の実現に向けた今後の取組について 【資料3】
- (2) 地域保健医療対策協議会（地域医療構想調整会議）（前回）  
における議論の状況 【資料4】
- (3) 群馬県保健医療計画別冊Ⅰに掲載されている医療機関一覧  
の更新について 【資料5】
- (4) 地域医療介護総合確保基金について 【資料6】
- (5) 前橋保健医療圏の医療機能等の現況について 【資料7】
- (6) 事前協議後の進捗状況について 【資料8】

### 5 その他

### 6 閉 会

# 前橋地域保健医療対策協議会委員名簿

(任期:平成31年4月1日～令和3年3月31日) 敬称略

	氏名	職名	備考
1	山本 龍	前橋市長	
2	田中 義	前橋市医師会長	
3	石原 秀一郎	前橋市歯科医師会長	
4	佐藤 岳彦	前橋市薬剤師会長	
5	横田 佳昌	群馬県病院協会理事	
6	加藤 祐之助	群馬県有床診療所連絡協議会長	欠席
7	関口 ひとみ	群馬県看護協会前橋地区理事	
8	中野 実	前橋赤十字病院長	
9	西田 保二	群馬県済生会前橋病院長	
10	内藤 浩	群馬中央病院長	
11	内藤 滋人	群馬県立心臓血管センター院長	欠席
12	高玉 真光	公益財団法人老年病研究所理事長	
13	田村 遵一	群馬大学医学部附属病院長	欠席
14	松本 雅子	前橋市地区婦人会連絡協議会長	
15	茂木 正次	群馬県自動車販売健康保険組合常務理事	
16	矢沢 和人	前橋市保健所長	
17	関 俊夫	前橋市消防局長	

# 令和元年度第1回前橋地域保健医療対策協議会 議事概要

○日 時：令和元年8月8日（木）13：30～14：40

○場 所：県庁29階 第1特別会議室

○出席者：前橋地域保健医療対策協議会委員17名中14名出席  
事務局4名、その他関係者、オブザーバー

## 1 開 会

## 2 あいさつ

## 3 議 事

### 議題（1）前橋地域保健医療対策協議会の部会の設置について（案）

○資料1-1から資料1-2に基づき事務局から説明。

●前橋地域保健医療対策協議会地域医療構想部会を原案どおり設置する旨了承。

### 議事（2）第8次群馬県保健医療計画の変更について（医師確保計画）

■医師の確保に関する事項（医師確保計画） ※患者の流出入調整を含む。

○資料2-1から資料2-4に基づき事務局から説明。

○意見、質疑等の概要は次のとおり。

（委員）

・職業選択の自由がある中で、医師少数区域に医師を派遣する際のインセンティブはあるのか。

（事務局）

・医師を派遣する方策としては、国としても群馬大学からの地域枠を主に想定している。修学資金を貸与することで、卒業後、地域に一定期間勤務してもらうことをお願いすることになるが、医師の同意のもと勤務してもらうこととなるため、医師少数区域の病院等で働きたいと思える環境づくりを県として取り組んでいきたい。

（委員）

・現在の二次医療圏で医師多数区域・医師少数区域を分けるのは違うと思う。県内で近隣の市町村の患者は、前橋保健医療圏が多数受け入れている現状があることから、二次医療圏の設定が正しいという前提がなければ、この保健医療圏で医師の多寡は決められない。

・県内の二次医療圏が現在の10医療圏で正しいのかを検証した上で、医師確保計画の検討をすべきである。

(委員)

・働き方改革が始まると、前橋保健医療圏でも医師が多いとは限らない。単に前橋保健医療圏に医師が多いから、他保健医療圏に医師を増やすというのは反対である。前橋保健医療圏は基幹であり、他保健医療圏からも患者を受けている。

(委員)

・調整不調で他県と意見が合わなかったのに、データの正確性については疑問がある。

(事務局)

・平成28年度に地域医療構想を作成した際の他県との調整結果のことである。調整後、他県とは患者流出入を見込むこととしたため、それを参考に、今回の計画においても患者流出入は見込むこととした。

・地域医療構想の議論であり、自分の圏域に患者が来た方がメリットがある状況での調整となった。

(委員)

・前橋市に開業医が多いのは、子どもの教育など様々な要因がある。医者が多いと競合するという問題があるが、医者が多く集まるとメリットもある。

・前橋市に居住し、他市に開業している人もたくさんいる。

(事務局)

・外来医療計画において、開業に対する規制は設けられていない。

・前橋地域に医療機能が集中することは、高度医療を提供することからも重要である。今回の取組は、医師多数区域の医師を減らすのではなく、医師多数区域に追加で県が医師を増やす取組を制限するということである。今後、医師を増やす場合、医師少数区域に勤務してもらおうという趣旨である。医師少数区域の医師数を底上げ（支援）していこうというものであることをご理解いただきたい。

### 議事（3）第8次群馬県保健医療計画の変更について（外来医療計画）

#### ■外来医療計画に係る医療提供体制の確保に関する事項

○資料2-5～資料2-7に基づき事務局から説明。

○意見、質疑等の概要は次のとおり。

(委員)

・医師の必要数というのは、どのような方法で決定しているのか。

(事務局)

・外来医師偏在指標は診療所の医師数をベースにしているが、外来医療計画ではその目標医師数は定めない。あくまで二次医療圏ごとに、診療所の医師の偏在状況を、データで見える化し、比較できるようにしたものである。

(委員)

・医療機器の共同利用について、前橋保健医療圏では地域医療支援病院が4つあり、既に行っている。

・前橋保健医療圏では、患者数も多く、医療の質も高いと思うが、単純に数字の多い少ないで評価されるのはいかがなものか。

(事務局)

・地域医療支援病院が医療機器の共同利用の使命を担っており、共同利用に協力していただいている旨は、十分に認識している。

・国では、全国統一で共同利用を根付かせようとしており、他の地域では共同利用が進んでいないところもある。また、医療機器の利用ができる枠があれば、地域に開放してほしいというものである。全国的に医療機器が多い現状であるため、新規購入の際には、共同利用を検討し、活用していこうというものである

・前橋保健医療圏のように共同利用が進んでいるところについては、引き続き共同利用を続けていくことを計画に記載していければいいと思う。

(委員)

・現在の保健医療圏単位で医師偏在等について議論しても意味がない。将来の医療を見据えた時に、医療が耐えられる保健医療圏の設定をすべきだと思う。正しい保健医療圏で医師が足りているかを確認しないと意味がない。

(事務局)

・複数の委員から、二次医療圏の見直しについてご意見いただいた。県としても現在の二次医療圏については問題意識を持っており、保健医療計画を作成する度に保健医療圏が現行のままで良いかを検討しているが、様々な事情の中で、10医療圏を維持すべきであるという形にまとまっている。

・現行の保健医療計画の中で作成する医師確保計画及び外来医療計画であるので、その中で工夫をしていきたい。

・一方、全ての患者が前橋で医療を受けられない状況もあり、地域にとって必要な医師さえ不足している地域がある。医師少数区域を定めて、支援をしていくという意味では意義がある。

## **報告事項(1) 地域医療構想の実現に向けた今後の取組について**

○資料3に基づき事務局から説明。

○意見、質疑等の概要は次のとおり。

(委員)

・公立病院と公的病院が一体的に扱われているが、公的病院としての役割を担う病院は、経営上多くの施設が赤字決算である。

・公立病院と公的病院は明確に違うものであり、公的病院は、固定資産の部分で減税されているが、赤字については、経営努力で黒字にする。一方、公立病院は赤字がでたら、税金が投入されている。

(委員)

・医師、病院、設備のバランスがとれており、必要な医療を的確に受けられる体制が一番である。

(委員)

・医師が移動するのではなく、患者の移動体制の構築も考えていかなければならない。  
・前橋保健医療圏が高度医療の中心として他保健医療圏について責任を持って、応援できるようにすることが必要である。

#### 報告事項（２）地域保健医療対策協議会（地域医療構想調整会議）（前回）に

##### おける議論の状況

○資料４に基づき事務局から説明。

#### 報告事項（３）群馬県保健医療計画別冊Ⅰに掲載されている医療機関一覧の更新について

○資料５に基づき事務局から説明。

#### 報告事項（４）地域医療介護総合確保基金について

○資料６に基づき事務局から説明。

#### 報告事項（５）前橋保健医療圏の医療機能等の現況について

○資料７に基づき事務局から説明。

#### 報告事項（６）事前協議後の進捗状況について

○資料８に基づき事務局から説明。

#### その他

(委員)

・産科について、民間病院が群馬大学と連携がとれていない。  
・群馬県周産期医療対策協議会について、委員の選定については、よく検討してほしい。  
・前橋市の人口が減っており、ヨーロッパなどでは、子どもが複数人いる場合は、助成金が出ている。また、不妊治療における助成金は高崎市が行っており、前橋市でも検討してほしい。

#### 4 閉会